

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【数学科】

1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

- ・知的障害を教育する教育課程の「教科等の学習」を行うとともに、「自立活動」の指導を重点的に取り入れる教育課程で学習している中学部2年の男子Aさん。
- ・身体面では、右半身に麻痺があり、車椅子を使用している。物の操作は主に左手で行う。目の前にあるものを掴むこともできるが、持ち続けることは難しい。いざりで移動することができる。
- ・コミュニケーション面では、発語はないが、表情や身体の動きで気持ちや要求を表現する。やってほしいことがあるときに左手で右手をたたいて要求することが定着しつつある。
- ・心理面では、見通しをもつことが苦手なため、不安定になりやすい。気持ちが不安定になると車椅子の背もたれに頭を打ち付けたり、手首をかんだりするが、好きなうちわで遊んだり、廊下を散歩したりすることで徐々に落ち着く。

2. 単元名「ボールをさがそう」（全14時間）

3. 単元の目標

知識及び技能	・箱を開けたり、布をめくったりしてボールや玩具を探し出すことができる。 ※特別支援学校 学習指導要領 小学部 1段階 A数量の基礎ア（ア）①
思考力，判断力，表現力等	・二つの箱のうち、ボールが入っている方の箱を開けたり、玩具が隠されている方の布をめくったりすることができる。 ※特別支援学校 学習指導要領 小学部 1段階 A数量の基礎イ（イ）
学びに向かう力，人間性等	・ボールや玩具を探し出すために、箱や布に自分から手を伸ばすことができる。 ※特別支援学校 学習指導要領 小学部 1段階 A数量の基礎ウ

4. 本時の目標 省略

5. 授業展開

解決したい課題や問い

- A：目の前に提示したボールを、二つの箱のうち的一方に隠す。「ボールはどこだ？」
B：目の前にあるムーブライトに、二枚の布のうち的一方を掛けて隠す。「ムーブライトはどこだ？」

考えるための材料

材料A「ボールを探そう」	材料B「ムーブライトを探そう」
・音が鳴ったり、光ったりし、感触が異なる四種類のボール（探す学習の前に一つ選ぶ）。 ・ボールが入る大きさの箱を二つ（蓋が磁石で閉まっていて、わずかな力で開けられる）。	・手で触れると光り、音楽が流れ、振動するムーブライト一台。 ・ムーブライトが完全に隠れる大きさの布を二枚。
想定される活動	想定される活動

<ul style="list-style-type: none"> ・ボールが入っている箱を開ける。中を見る。手を箱の中に入れる。ボールを取り出す。 ・ボールが入っていない箱を開ける。もう一方の箱に気づき、開ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ムーブライトを隠している布をめくる。ムーブライトで遊ぶ。 ・ムーブライトがない方の布をめくる。もう一方の布に気づき、めくる。ムーブライトで遊ぶ。
--	--

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

※対話の方法

- ・教師との一対一の対話

※対話や思考のプロセス

- ・教師「隠しちゃおうよう。」
- 生徒「あれ、先生が何か言っている。」
- 「先生が僕の好きなボールを持っている。」
- 教師「ボールはどこだ？」
- 生徒「あれ？ボールはどこへ行ったのだろう。」「今まであったのに。」「触りたいのに。」
- 教師「ボールどこ？」「こっち、こっち。」
- 生徒「ボールはどこだ？」「先生が呼んでいる。」「呼ばれたほうに行ってみようかな。」
- 「箱があったぞ。」「よし、開けてみよう。」「あった！」
- 教師「あったね！」
- または、
- 生徒「箱を開けたのにボールがない！」
- 教師「ないね。」「ボールどこかな？」
- 生徒「あれ？もう一つ箱があるぞ。」「よし、開けてみよう。」「あった！」
- 教師「あったね！」

*ムーブライトも同様の流れ

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

<p>A 「ボールを探そう」の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「選んだボールで遊びたいな。」 「あれ？先生が何か言っている。」※ 「隠しちゃうの？」 「なくなった。」 「ボールはどこに行ったのだろう。」 「先生が僕のことを呼んでいる。」 「何か箱があるぞ。」 「開けてみよう。」 「あっ、ボールがあった！」 「あったねって先生が言っている。一緒に遊んでくれて嬉しいな。」 「あれ？またボールがなくなった。」 「どこかなあ。」 「この箱の中かな？ない！あれ？」 「あれ、ここにも箱がある。」 「開けてみよう。」 「あった！」 (※に戻る。) 	<p>B 「ムーブライトを探そう」の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ムーブライトって面白い。自分で遊ぶの楽しいな。」 「あれ？先生が何か言っている？」※ 「何で隠しちゃうの？僕はもっと遊びたいのに。」 「なくなった。」 「ムーブライトはどこにあるのだろう？」 「先生が呼んでいる。」 「何だ？白い布があるぞ。」 「めくってみよう。」 「あっ、あった！」 「よし、ムーブライトで遊ぼう。」 「楽しいなあ。」 「あれ？また先生が隠しちゃった。」 「どこかなあ。」 「この下かな？ない！あれ？」 「あれ、ここにも布がある。」 「めくってみよう。」 「あった！」 (※に戻る。)
---	---